

# (財)千葉県アイバンク協会設立25周年記念

L 内田 千尋

平成21年11月15日(日)千葉駅ビル6階のペリエホールにて、(財)千葉県アイバンク協会—設立25周年記念式典が行われました。昭和60年4月に協会が設立され、初代 秋場寛理事長、二代 江畑耕作理事長、三代 林静誠理事長(現在)、あと役員としましては理事、評議員で構成されております。

当日は、千葉県知事代理 千葉県健康福祉部 井上肇様、ライオンズクラブ国際協会333-C地区ガバナー 高田浩様を始め、来賓、招待者、ドナー家族、ライオンズメンバー、評議員、理事、監事等、計110名の参加をいただき行われました。

私共浦安ライオンズクラブからは、会長 芝田錦一ライオンが参加いたしました。浦安ライオンズクラブは、アイバンク協会に対して、周年行事のアクティビティ事業の一環としての寄付金のもとより、毎年寄付を行っておりますので、その実績に対しまして感謝状をいただきました。又当日式典のセレモニーの中で献花がありましたが、実はその献花台の設営に、私共の東ライオンのご協力をいただきました。費用の方も大変勉強していただきましたことをご報告いたします。

この活動の原点は、1925年ヘレン・ケラー女史がライオンズクラブの国際大会で「盲人のために暗闇と戦う十字軍の騎士になってくださいませんか」と、スピーチして以来、「世界中の失明を救おう」とライオンズクラブの主要な人道的奉仕活動であります。日本でのアイバンク運動はライオンズクラブが中心となって寄与するところは非常に大きく、千葉県に於けるアイバンク運動も設立から今日まで歴代地区ガバナーがその重要性を訴え献眼登録運動、協会運営のための資金提供など積極的に支援していただいております。

現在アイバンク登録者は17,235名、献眼者は265名です。皆さん、失明は人生にとって極めて悲しい出来事の一つです。角膜障がい者の多くは角膜移植によって目が見えるようになります。移植を行うには、お亡くなりになられた方から角膜を提供していただく必要があります。アイバンク協会は亡くなられた方の善意で提供された角膜を、必要としている方に移植して光を取り戻す事業をライオンズクラブのメンバーが中心になり、多くの方々の善意と協力によって成り立っております。

私共浦安ライオンズクラブに、私も含め献眼登録をされている方も若干名おります。この奉仕活動も大変素晴らしい活動であります。メンバーの皆さん、このことをご理解いただき、これからもご協力の程よろしく願いいたします。

